

巻頭言：初めまして、海と地球の専門図書館です！	1
特集：神図協 この1年の動き	
地域資料委員会、大学図書館協力委員会	2
研修委員会、広報委員会	3
連載：わたしのイチオシ	
大磯町立図書館「大磯図書館まつり～コロナ禍でも続けた『お祭り』～」	4

初めまして、海と地球の専門図書館です！

海洋研究開発機構図書館

長尾 典子

こんにちは！令和6年4月より、神奈川県図書館協会に加盟させていただきました、国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）の図書館です。どうぞよろしくお願いいたします。

JAMSTECは1971年に認可法人海洋科学技術センターとして設立されました。以後半世紀余り、海洋研究を通じて地球科学の発展に寄与することを目指して研究開発を行っています。本部は神奈川県横須賀市にあり、横浜や青森、高知、沖縄にも拠点があります。約1000名の研究者・技術者・船員・事務職員が所属しており、有人潜水調査船「しんかい6500」や地球深部探査船「ちきゅう」、スパコン「地球シミュレータ」などさまざまな研究船や研究設備等を保有し、現在、最新の北極域研究船「みらいII」を建造中です。

JAMSTECの図書館は、研究者や職員向けに文献や情報を提供することを主業務としつつ、一般開放図書館を持つことが特徴です。この一般開放図書館には、JAMSTECの研究成果報告書や所属研究者の著書

をはじめ、海洋地球科学に関する一般書、専門書、児童書、科学絵本などを所蔵し、一部資料の貸出も行っています。また、専門的なレファレンスサービスや企画展示、イベントを通じて、幅広い層に海と地球について学ぶ機会を提供しています。しかし、課題として認知度の低さがあると感じています。その解決のため、近年、地域の人々にJAMSTEC図書館を知ってもらうための取組に力を入れています。所在自治体の公共図書館との連携を強化し、地域の研究所、専門図書館として親しんでもらうことを目指しています。そのような中で、この度、神奈川県内の様々な図書館とつながりを持つ神図協に加盟させていただいたことを大変嬉しく思っています。

海洋地球科学についての情報や資料をお探しの際には、ぜひJAMSTEC図書館を思い出していただきたく存じます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします！

地域資料委員会

地域資料委員会は、「地域資料に関わるサービスの調査研究」を目的としています。

令和5・6年度の2年間は、地域資料の活用の現状を再確認することを念頭に、近年図書館の課題である「デジタル化」をテーマに研修会を実施、意見交換を行ってきました。

今年度は10月3日に神奈川県立図書館を会場に、研修会を実施しました。テーマは「地域資料のデジタル化とアーカイブ構築」とし、国立国会図書館電子図書館課から岡本常将氏に講師をお願いし、国会図書館や他県の取組についてご紹介いただいたほか、県立図書館・鎌倉市中央図書館・二宮町図書館の事例発表、参加者による意見交換を行いました。

岡本氏のお話では「神奈川県はデジタルアーカイブを持っている施設が多い」ということでしたが、規模の異なる図書館の事例発表から、一口に「地域資料アーカイブ」といってもその形が様々であることがわかりました。グループに分かれての意見交換では、公共図書館・大学図書館・専門図書館の館種を超えた活発な意見交換が行われ、デジタルアーカイブに対する関心の高さが伺えました。一方で、特に小さな自治体・組織では予算の確保・人的資源の課題が深刻であることや、立ち上げたデジタルアーカイブの維持管理・アップデートに対して課題があることも話題に上がっていました。

なお、国会図書館が令和6年10月に開催したフォーラム「市町村における地域資料のデジタル化及びデジタルアーカイブ構築」（フォーラム司会は岡本氏）の報告が、カレントアウェアネス-E (E2755) に掲載されていますので、各館で参考になることと思います。

コロナ禍を経て、公共図書館でも電子書籍の導入が進むなど、デジタル化によって新たな取組が生まれています。地域資料の保存・活用にもデジタル化は切り離すことができません。

各図書館、それぞれに様々な課題がある中で、今期の地域資料委員会の活動が、一助となっていれば幸いです。

[委員長 二宮町図書館 込山 久美子]

大学図書館協力委員会

令和5年度より大学図書館協力委員会委員長を務めております、鶴見大学の牧で御座います。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

大学図書館協力委員会では、図書館運営に係る様々な問題について議論を重ねており、令和6年度は運営委員会を3回実施いたしました。

昨年度に続き、各大学図書館から業務遂行上の問題点や疑問点を集約し、各館の取組状況などを順次紹介し情報共有を図りました。その結果「公的資金による学術論文等の即時オープンアクセス義務化」「電子書籍の導入」「貴重書のデジタル化・アーカイブ構築」等の検討課題が挙げられました。

その中でも「オープンアクセス義務化」は、自然科学系の研究成果の公開手段が、事実上海外の学術雑誌社の寡占状態にあり、論文購読に高額な「購読料」を要求される現状を打破する国家戦略で、雑誌社の運営を研究者が支払う「論文投稿料」に転換し、基本的に購読を無料とする取組です。国民の税金で賄われている公的研究費による研究成果を、大学図書館が運営する「学術機関リポジトリ」や文献検索サイト「CiNii Research」に搭載することで、万人に購読可能とするものです。

令和6年度は文部科学省からオープンアクセス加速化事業として100億円規模の補助金が措置され、当委員会からも4大学が採択を受けました。今後はそれら採択校の取組を先行事例とし、全大学にフィードバックされる事が期待されています。

この様に、大学図書館は利用者への学術研究資料の提供のみならず、自機関から生成される研究成果や研究データを「機関リポジトリ」を通じて全世界に発信することで、国民への説明責任を果たし、研究成果の共有・公開による研究の加速化や新たな知の創造を促し、研究成果を社会還元する機能をも担っているのです。

当委員会では、国立、公立、私立と設置母体は異なりますが、各大学図書館相互で情報共有を行い、議論を交わすことで業務改善に繋げており、この様な大学間を跨いだ横の連携は、大学事務組織の中でも図書館ならではの取組となっています。

引き続き、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

[委員長 鶴見大学図書館 牧 幸男]

研修委員会

令和6年度は、昨年度に引き続き、施設見学や集合研修、オンライン研修等、さまざまな形態で各委員が工夫し、6回の研修会を開催し、多数の方に参加いただくことができました。また2年間の活動は、県内の図書館職員が交流、情報交換ができる貴重な機会となりました。ご協力くださいました各委員にお礼申し上げます。今年度の活動の概要は次のとおりです。詳しい報告はホームページをご覧ください。

(<https://www.kanagawa-la.jp/>)

回数	研修テーマ・講師 (敬称略)	開催日
第1回	施設見学 「東京大学総合図書館」	9/26
第2回	講演「スローコミュニケーション ～図書館のソフト面のバリアフリー～」 講師 羽山 慎亮 氏 (一般社団法人スローコミュニケーション副理事長)	10/24
第3回	図書館総合展フォーラム 講演「ちょっと寄り道ドキドキワクワク 湘南工科大学附属高等学校 HABITAT の挑戦」 講師 暮部 優衣氏 (副校長・図書館長) 齋藤 之孝氏 (司書教諭)	11/5
第4回	講演「元国会図書館員に学ぶ調べる技術」 講師 小林 昌樹氏 (『近代出版研究』編集長)	11/19
第5回	神奈川県子ども読書活動推進フォーラム 講演「本を装う ブックデザインの世界」 講師 名久井 直子氏 (ブックデザイナー) 事例発表 東洋英和女学院大学図書館サポーターWELL	12/8
第6回	施設見学 「国立国会図書館国際子ども図書館」	1/28

[委員長 横浜市中央図書館 久保寺 信行]

広報委員会

令和6年度も、協会報と図書館だよりの発行、図書館総合展ブース出展を主軸に、県内各種図書館ならびに神図協の広報活動を実施しました。また、委員会を対面で4回開催し、これらの広報活動を効果的に実施できるよう努めました。

- 協会報 287号 (7月1日発行)
巻頭言「地域資料委員会の活動について」
特集:「令和6年度 神奈川県図書館協会総会開催報告」
わたしのイチオシ 秦野市立図書館「前田夕暮記念室」
神図協事務局から 令和6年度 人材育成事業
- 協会報 288号 (10月1日発行)
巻頭言「図書館は成長する有機体である—私たちに寄せられている期待にいかに応えるか—」
特集:「横浜市立図書館情報システムの全面リニューアルについて」
研修会レポート「中央区立京橋図書館」見学研修
わたしのイチオシ 神奈川工科大学附属図書館「創立60周年記念展示について」
- 協会報 289号 (1月1日発行)
巻頭言「10年、20年先の図書館を見据えて」
特集:「図書館総合展」
わたしのイチオシ 川崎市立図書館「川崎市市制100周年記念事業ぞくぞく」
神図協事務局から 令和6年度 人材育成事業
- 協会報 290号 (4月1日発行)
巻頭言「初めまして、海と地球の専門図書館です！」
特集:神図協 この1年の動き
わたしのイチオシ 大磯町立図書館「大磯図書館まつり～コロナ禍でも続けた『お祭り』～」

パシフィコ横浜でのオンサイト開催が再開して2年目の図書館総合展は、エリアの拡大もあり昨年以上の活況が見られました。詳細は協会報の特集をご確認ください。

(<https://www.kanagawa-la.jp/file/2122>)

原稿をご執筆いただきましたみなさま、ご支援いただいたみなさまのおかげをもちまして、今年度も円滑に広報委員会の活動を行うことができました。ご協力ありがとうございました。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

[委員長 大和市立図書館 松田 彰]

連載 わたしのイチオシ

大磯町立図書館「大磯図書館まつり～コロナ禍でも続けた『お祭り』～」

今回の「私のイチオシ」では、当館で力を入れている行事の一つ「大磯図書館まつり」を紹介します。「大磯図書館まつり」の歴史は長く、2024年度まで23年間続けて実施しています。

「大磯図書館まつり」の前身は、「古本市」です。1995年10月28日、29日の2日間で、「第1回古本市（本の無料交換市）」を開催。参加人数は750名でした。年1回開催の「古本市」は2001年度まで全7回実施いたしました。

そして翌年の2002年10月20日、「第1回図書館まつり」が開催されました。実施の中心となったのは「大磯図書館まつり実行委員会」です。

ここで実行委員会の成り立ちについて説明します。当館では1980年に「おはなしボランティア」の募集を開始しました。そして、「おはなし会」の運営以外の館内整理日での活動や「映画会」の実施などの「図書館ボランティア」を募集したのが、2001年度になります。その「図書館ボランティア」を中心とし「大磯図書館まつり実行委員会」を立ち上げました。

「大磯図書館まつり」には「古本市」だけでなく、子ども向けのイベントを増やして、子ども読書活動を推進していこうという願いが込められています。第1回では、①古本市のほか、②吹奏楽③ヨーヨー祭り④マジックショー⑤ハンドベル演奏など、様々な催しを実施しました。

「大磯図書館まつり」は、途中から地域のNPO法人の協力をいただきながら、実施回数を重ねました。第1回の参加人数は862名。2018年度の第17回には、最多の1,495名を記録しました。この時のプログラムを紹介いたしますと、①古本市②おはなし会③折り紙教室④森の手作り広場（松ぼっくりでクリスマスツリーの作成）⑤Tea Room⑥図書館クイズ⑦ぬりえ⑧バルーンアート⑨紙袋魚釣り⑩川柳（の作成・掲示）です。

順調に見えた「大磯図書館まつり」も、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けました。当館は2020年3月から同年6月にかけて臨時休館し、開

館再開後も主催行事の実施には制限がかかってしまいました。全国的に大規模な「お祭り」を自粛するムードの中、「大磯図書館まつり」をどうしたら実施できるのか。図書館職員も実行委員会も皆開催への思いは一緒でした。実行委員会と話し合いを重ね、プログラムは「古本市」のみ、従来の1日制から3日制にし、入場時間を予め決める事前申込制で実施することになりました。こうして「第19回大磯図書館まつり」は、2020年11月6日～8日に実施。参加人数は140名でした。

コロナ禍前後で大きく違うのは、「古本市」の実施方法です。コロナ禍前は自由入場で、コロナ禍後は入場制限を行いながら実施しています。2021年度と2022年度は、事前申込・2日制で実施しました。2023年度からは事前申込制を廃止。当日に整理券を配布する形で、入場の制限を行いました。



「キッズ古本市」（第22回より）

2024年11月10日に実施した「第23回大磯図書館まつり」のプログラムを紹介いたしますと、①古本市②キッズ古本市（児童向け資料中心。図書館外駐輪場）③図書館クイズ④書庫見学⑤工作教室（紙粘土マグネット制作）⑥スペシャルおはなし会（おはなし・絵本・紙芝居・大型絵本の4本立て）を実施し、参加人数は466名でした。前身の「古本市」を合わせると、「大磯図書館まつり」は、30年連続で「古本市」を実施したことになります。当館では、今後も来館者に図書館を身近に感じてもらえるよう、本と人とを繋げる「大磯図書館まつり」を続けてまいりたいと思います。

（大磯町立図書館 山田 広樹）